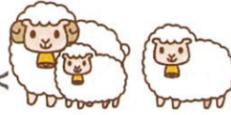


そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だよりNo. 2

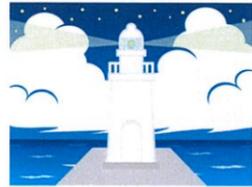
2020年7月10日発行



7月の聖句『わたしは世の光である』

(新約聖書・ヨハネによる福音書 8章12節)

イエス様は、私たちが迷子にならないために、光として来られました。どんなに闇が深くても、イエス様は光として、私たちを導きます。灯台の光が、港へ船舶を導くように、イエス様は私たちを帰るべき港へと導きます。



「こどもたちの礼拝における聖話より」
チャプレン 司祭 池田亨

同学年クラス・ときどき縦割りチーム

園長 菊地 和子

今年度からクラス編成が変わり、同学年・二人担任制になりました。子どもたちが学ぶ環境は大人が作るわけですが、その影響は計り知れないものがあります。6月から毎日の保育が始まって一か月、子どもたちにどんな変化がみられるのでしょうか？

ゆったりじっくり

1日の中で縦割りクラスから同学年クラスへの移動がなくなっただけ、前よりもゆったり活動できるようになりました。また、同学年のお友達との関わりが増え、遊び相手の選択肢が広がっているように感じます。

同学年クラスの中でも日常的に

「ゆり、さくら、すみれ、ひまわり」のお花のチームが生きています。これはたてわりの時間のチームにつながります。



「自分は次、どこに行ったらいいんだろ？」と迷っていた子たちにとっては「自分のクラスはここ、先生はこの人」と安心してさせているようです。



二人の担任の先生はよく相談し合ったり教え合いながら支援の先生たちの力も借りてとても工夫した活動をしています。

いい時間だった縦チームの日

さくらチーム・春日公園
すみれチーム・セブンイレブンの裏から春日公園へ
ゆりチーム・駒園公園
ひまわりチーム・あやめ公園



大きな子と小さな子が手をつなぎ目的地まで仲良く歩きます。ゴミひろいで町をきれいにしてから遊ぶのが聖十字スタイルです。



大きな子は車道側になり小さい子を安全に守ります。道が変わっても上手に小さい子を内側に入れて誘導する姿がとっても立派でかわいらしかったです。

遊んでいる写真を見るとどの公園でも3色のぼうしを混ぜ合わせていました。小さい子のシーソーを支えてあげる年中さんなど遊びの中でも小さい子を気づかうようすが見えましたよ。

6月30日(火)縦割りチームの初の顔合わせです。年長さん年中さんにとっては「お久しぶり」というかんじでしょうか？



外部講師のプログラムも始まりました

ちゅーりっぷさんとひよこさん。ちっちゃいクラスで初のバルシュー。

最初は「なにがはまるんだろ？」「この人はたれだ？」とものすごく静かで緊張したしめつけです。



でもはまると笑顔が満開！先生の長い指をちゃんと理解して実行するようになり感動していました。



あれ？ずいぶんおねー

終わってから先生たちにお聞きすると小さい子のクラスでは

集中できる時間が短いので、遊ぶチームとボール活動するチームに分けるそうです。でもみんな集中がつづいたので、時間いっぱい全員を活動できたそうですよ。

コロナ後の世界

17世紀の科学者・ニュートンはケンブリッジ大学の学生さんだったそうです。ヨーロッパでペストが大流行して、大学が休校、故郷に帰ったステイホームの時間、いろいろ考えているうちに万有引力の法則を発見したそうです。さらにさかのぼって14世紀、ペストでヨーロッパの人口の4分の1が亡くなったとき、より人間らしい自然な生活を取り戻そうという人々の願いがルネサンスにつながったそうです。ダ・ヴィンチなど大天才が活躍しました。人間ってたくましいですね。自然の脅威と戦い傷つきながらも、立ち上がってきたんですね。